

チーム名

WE LOVE たいらんど

タイトル

持続可能な観光と世界遺産の関係について

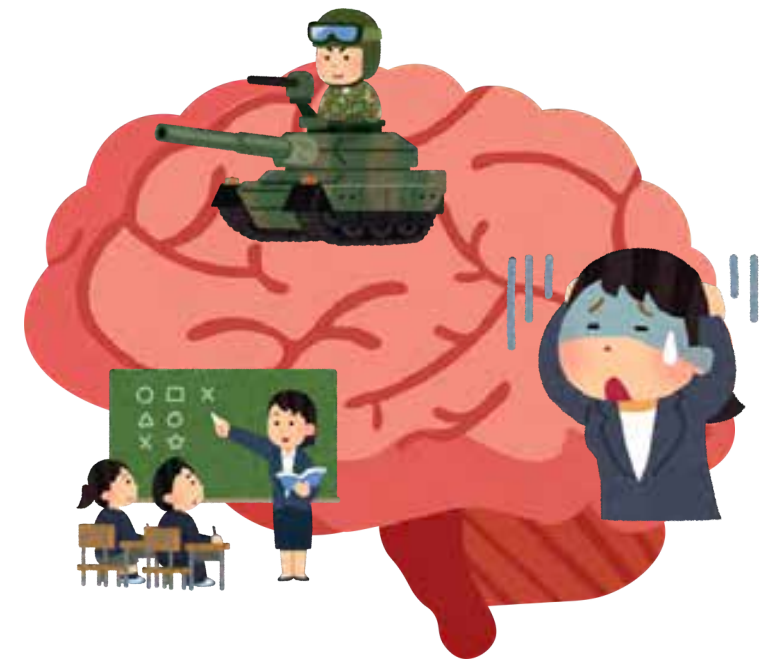
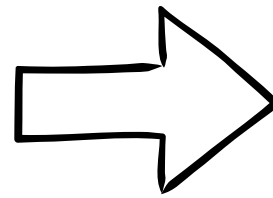
～実際にタイに行って調べてみた！～

選んだ探究課題

平和な世界を実現するための世界遺産の

役割について探究し、提案してみよう

世界遺産の役割について探究し、提案してみよう



世界遺産＝美しいではない

世界遺産とは、特定の国や地域のものではなく、人類全体で共有し、未来へ引き継ぐべき価値を持つ遺産です。世界遺産というと、美しい景観や歴史的建造物に注目しがちですが、その本当の意義はそれだけではありません…

戦争や失敗の記憶

世界遺産には、人類が経験してきた繁栄や失敗、争いの記憶、そしてそこから得られる教訓が刻まれています。つまり世界遺産は、過去を保存するためだけの存在ではなく、私たちがこれからどのような選択をし、どのような社会を築いていくべきかを考えさせる「生きた教材」だと考えました。

私たちの問い

世界遺産は平和と観光にどう関わるのか
世界遺産は地域の平和に何ができるのか
世界遺産は持続可能な観光にどう役立つのか

持続可能な観光とタイ研修の目的



観光には良い面と課題の両方がある

観光は地域の経済を支え、人と人をつなぐ良い面がある一方で、環境への負担や住民とのトラブルなどの課題もあります。



「量」より「質」を重視する観光を学習

私たちは、観光客の数を増やすことよりも、地域の人や自然を大切にしながら続けられる観光のあり方、つまり「量」より「質」を重視する観光を学んできました。



GSTCの考え方をもとに実践

社会・経済・環境・文化のバランスを大切にするGSTCの考え方をもとに、地域と連携した学習や活動を行ってきました。



タイで世界遺産と観光の関係を調査

その学びを海外でも確かめるため、タイを訪れ、世界遺産と観光が地域の暮らしとどのようにつながっているのかを調査しました。

アユタヤ遺跡で学んだこと

アユタヤ遺跡は、戦争の悲劇を伝える場所であると同時に、地域の人々が平和への願いを込めて守り続けている場所だと分かりました。



戦争によって都市が破壊された歴史

アユタヤは14世紀から約400年間、国際商業都市として栄えていましたが、18世紀にビルマ軍の侵攻を受け、都市の多くが戦争によって破壊されました。



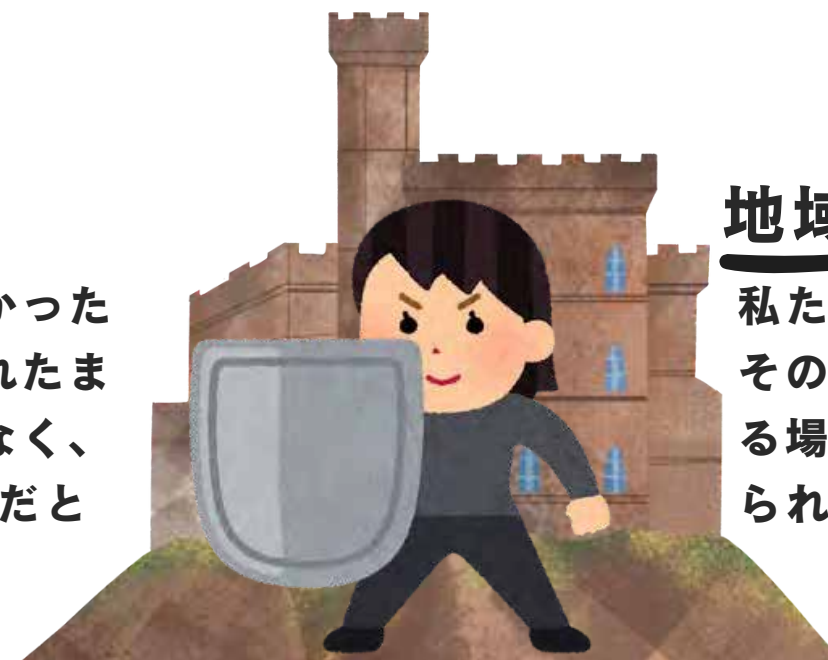
頭のない仏像が多く残る理由

遺跡には頭のない仏像が多く残っていましたが、これは仏像の頭に金が使われていたため、侵攻した兵士たちが金を奪う目的で意図的に壊したからだと分かりました。



現地で感じた戦争の重み

実際に遺跡の中を歩くと、写真では分からなかった戦争の重さや悲しさを強く感じました。壊されたまま残る建物や仏像から、戦争は人の命だけでなく、文化や信仰、人々の誇りまで奪ってしまうのだと実感しました。



地域の人が守り続ける遺跡

私たちは遺跡周辺に住む地元の方にも話を聞きました。その方は、アユタヤ遺跡をととても神聖で誇りに思っている場所だと話してくれました。また、世界遺産として守られていることで、子どもたちが歴史を学び続けられるとも言っていました。

世界遺産から学び、行動へ

～まとめ～

若者が地域や観光に主体的に関わることで、
平和な社会づくりの第一歩だと考えています。

SDGsとのつながり



世界遺産は、争いの歴史を伝えることで平和の大切さを学ぶ場となり、SDGs目標16につながっています。さらに、地域の人々が誇りを持って守り、観光と共存することで、暮らしが続くまちづくりとなり、目標11にも関係しています。

私たちの行動



私たちはニセコ町と連携し、高校生や大学生向けに観光と地域の関係を学ぶサステナブルツアーを行い、GSTCの考え方をともに「良い観光地とは何か」を一緒に考える活動をしています。